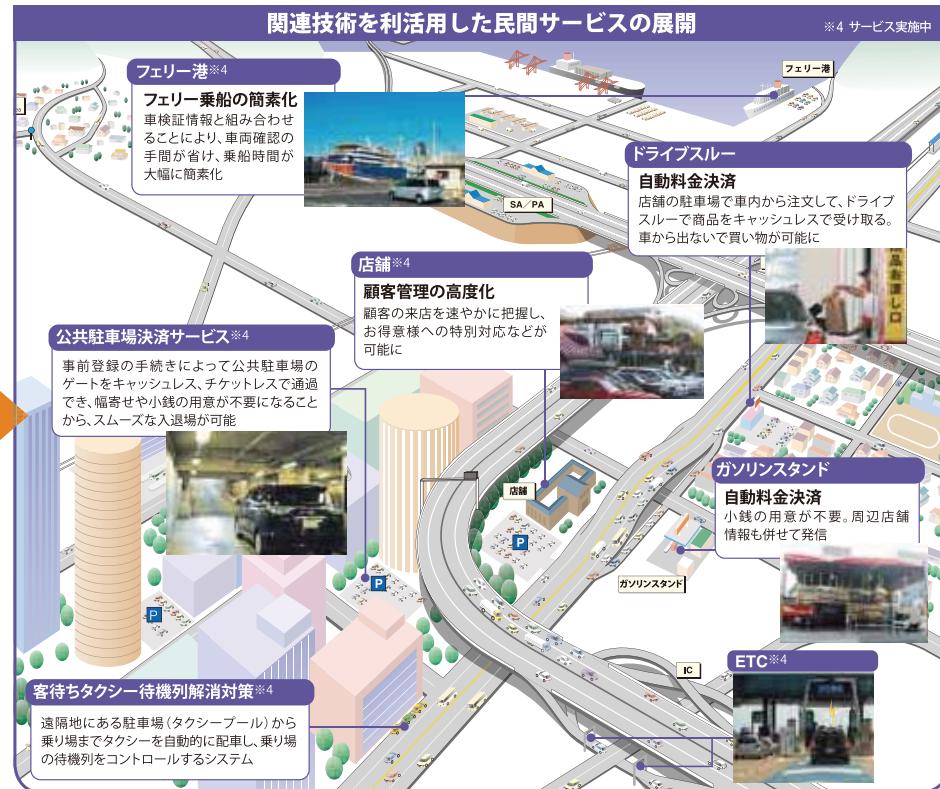
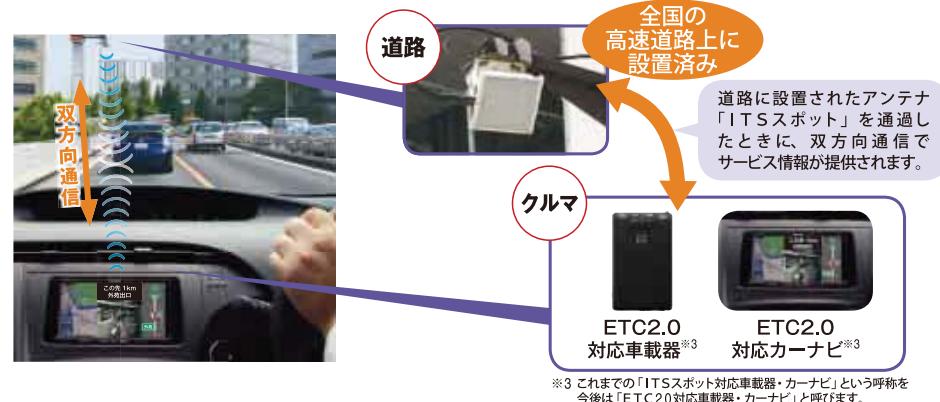


世界最高水準の効率的な移動へ

「ETC 2.0」では、道路側のアンテナであるITSスポットとの高速・大容量、双方向通信で、世界初の路車協調システムによる運転支援サービスを受けることができます。



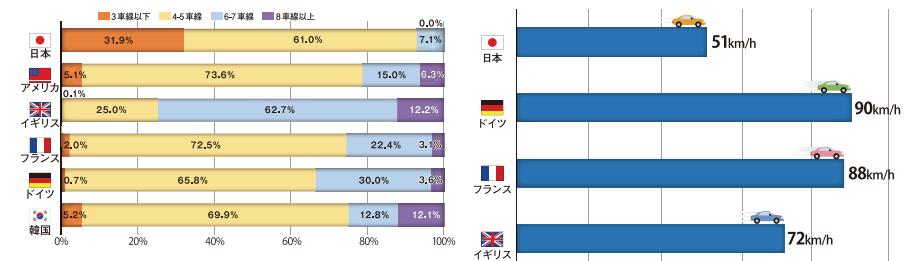
貧弱な道路状況のため、移動時間の約4割を渋滞で損失

日本の国土は急峻な山岳と河川・湖沼が約70%を占め、約1億2千万人の国民が生活をするための可住地面積は約30%に過ぎません。都市は稠密となり、道路ネットワークは貧弱で、なかでも高速道路の車線数は他の先進国に比べ極端に少なくなっています。

渋滞は常態化し、都市間の平均連絡速度においても低い水準にとどまっています、移動時間の約4割を総渋滞損失が占めるほど非効率な移動となっています。

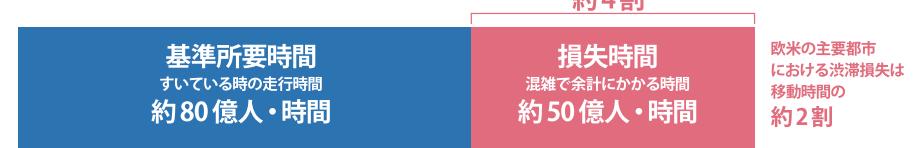
日本の高速道路は車線数が少ない

●高速道路の車線数別延長の構成比



出典：日本：2010年道路交通センサス、自動車輸送統計年報（2010）より集計
アメリカ：National Transportation Atlas Database
イギリス、フランス、ドイツ：TOMTOM MultiNet より集計
イギリス：モーターフェイ（Motorway）
フランス：オートルード（Autoroute）
ドイツ：アウトバーン（Autobahn）
韓国：韓国国土交通部統計（2012年末）

日本の総渋滞損失は年間約50億人・時間（移動時間の約4割） 約280万人分の労働力に匹敵します



1人あたり約40時間

出典：TomTom Americans Traffic Index
TomTom European Traffic Index

国土交通省道路局 <http://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/>

もうETC(料金収受)だけじゃない

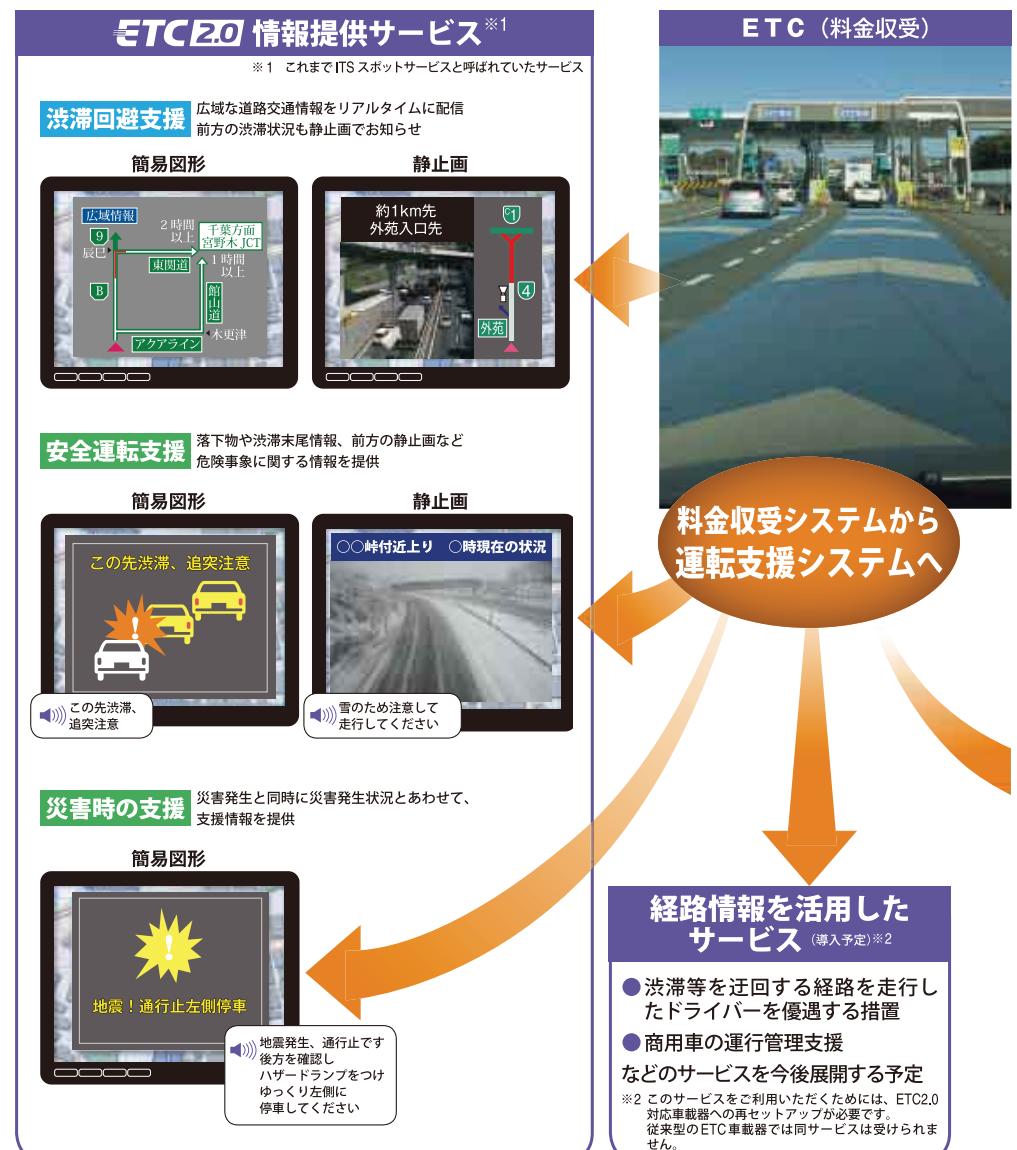
ETC 2.0

国土交通省

2014.12

広がる運転支援サービス

「ETC 2.0」では、渋滞回避支援や安全運転支援、自動料金収受などのサービスが受けられます。さらに今後、道路交通情報や走行履歴・経路情報などのビッグデータを活用して、さまざまな新しいサービスが導入される予定です。



渋滞回避支援

広域の渋滞情報を受信し、賢くルート選択



安全運転支援

事前の注意喚起などによりドライブ中のヒヤリを減少

事故多発地点ではカーブ先の見えない渋滞など危険な状況を注意喚起

例えば首都高速では、道路延長の2%に全事故件数の約20%が集中。



事故が発生しやすい以下のよう箇所の手前で事前に注意喚起 (全国約190箇所)

- 5日に1件以上事故が発生している箇所
- 地域プロックレベルで事故が多発している箇所
- 事故により通行止めや長時間規制等の影響が大きい箇所

トンネル入口等の渋滞を画像で提供



積雪や霧などの状況を画像で提供

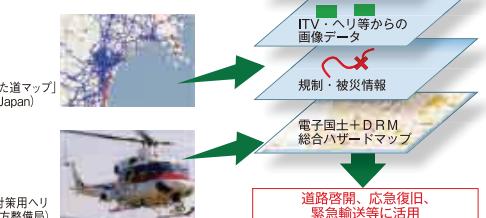


災害時の支援

大災害時の通行可能ルート情報を提供

- ・官民のプローブデータを統合し、通行実績を把握
- ・通行実績情報を含む、各種情報の基盤地図上への統合

- ・通行障害や構造物への影響を迅速に把握
- ・的確な巡回や啓開計画の立案を支援



物流の効率化等を支援します

「ETC2.0」により走行経路や急ブレーキや急ハンドルの情報を物流業者へ提供し、運行や配送の管理などを支援します。また、特殊車両・大型車両の走行経路などを把握して、道路ネットワークの賢い利用も促進します。

